

## 短いアプローチで岩稜のアルプスへ スイス／ベルナーオーバーラント **メンヒ (Mönch)**

小暮

【日時】 2009年9月26日(土)

【メンバー】L小暮、笹川

今年の夏は仕事で休みが無かった。代わりに代休を9月に取得することを心の支えに夏を乗り切り、ごほうびのスイス旅行となった。スイス旅行はグリンデルワルトにベースを構えて、アルプスの麓のハイキングとアルプス登山を楽しむというものである。グリンデルワルトはスイス中央部にあるベルナーアルプスの麓の美しい村である。日本からのアプローチはチューリッヒ空港とし、バンコク経由で5.5時間のフライトと3時間のトランジット、更に12時間の長時間のフライトと大変長い。チューリッヒからはスイス国鉄のゴールデンパスという眺めの良い路線で、ルツェルンという美しい湖の町で乗換え、更にインターラーケンオスト駅を経由してグリンデルワルトに入る。今回は節約したのでグリンデルワルトの隣のグレント駅から少し歩いたキャンプ場がベースである。

グリンデルワルトから登山鉄道で1時間30分。登山電車はアイガーの下を貫くトンネルを抜けて標高3573mのユングフラウヨッホ駅に着く。冷え切った構内から外に出ると一転、日差しが暑かった。

メンヒヨッホ小屋までは、幅広のトレールが雪面に整備されており、気楽に歩を進められる。メンヒの取り付けは岩場となっており、こ

でハーネス、ヘルメットを用意しアンザイレンする。先行するガイドパーティよりしばらく遅れて岩に取り付く。浮石に注意が必要なのと赤ペンキ等も無いのでルートファインディングが必要だ。ショートロープのガイドコンテの形で登る。雨量計まで登るとその先で雪面が出てくるのでアイゼンをつける。すぐに岩場となるので再びアイゼンを外して岩場を登る。難易度はⅡ級程度だ。つぎに急な雪壁が出てくる。斜面には鉄のポールが約10mおきに差し込まれているので、これを確保に使う。トレースはあるが、雪面が非常に硬いので慎重に登る。雪壁の終了点では先行のガイドパーティ3名のうち女性一人がポールにスリングで繋がれて残っている。急斜面の先は両側が切れ落ちたスノーリッジが200m位続いてピークに達する。歩き方などで無理だという判断が働いたのだろうか。



ユングフラウをバックに



岩場はⅡ級程度

我々も慎重に進む。トレースの幅は狭いところで30cm程度で両側も切れているので中間支点は全く取れない。難しくは無いが緊張感がずっと続く。頂上からは先ほどのガイドパーティの2名が降りてきた。すれ違いには一苦労で、ガイドパーティが急斜面の側に一段下がってもらったが、あまりすれ違いをしたくないところだ。頂上では、雲は出ているが素晴らしい展望だ。ユングフラウが堂々として大きい。ユングフラウフィルン谷の広い斜面、フィンスタールホルン、シュレックホルンも素晴らしい。後から来た別のガイドパーティに写真を撮ってもらい下山する。



フィンスタールホルンをバックに

ナイフリッジを慎重に下り、急雪壁では、ビレイして降りる。岩場のところで先ほどのガイドパーティに抜かれる。ガイドパーティは、岩場のポールにロープを2回巻きつけてビレイしているので我々も真似してみると確かに早い。登りではぎこちなかった動きも岩に慣れてきたのか下りは割りとスムーズだった。取り付けから10分ほどでメンヒスヨッホ小屋へと向かう。今夜はここに宿泊して、明日はユングフラウへ登る予定である。



メンヒ山頂にて

小屋の予約は日本からメールでしていたのでスムーズに受付できた。以前、モンブランに行った時は、グーテ小屋に泊まったのだが、メール予約が出来ず電話も言葉がうまく伝わらず予約は現地の日本語案内所でしてもらったのでメール予約が出来るのは非常にありがたい。メンヒスヨッホ小屋は非常に快適で二段ベッドで夕食までしばらく横になる。食事は、パン、特大スープ、ハム、ポテト、インゲンをマスタードで頂く。なかなか美味しかった。ビールと水を買ったらビールよりも水の方が高かった。

前、モンブランに行った時は、グーテ小屋に泊まったのだが、メール予約が出来ず電話も言葉がうまく伝わらず予約は現地の日本語案内所でしてもらったのでメール予約が出来るのは非常にありがたい。メンヒスヨッホ小屋は非常に快適で二段ベッドで夕食までしばらく横になる。食事は、パン、特大スープ、ハム、ポテト、インゲンをマスタードで頂く。なかなか美味しかった。ビールと水を買ったらビールよりも水の方が高かった。

#### メンヒスヨッホ小屋で



【行程】9/26 グルント駅(7:25)⇒(鉄道)⇒ユングフラウヨッホ(8:52/9:10)～取付(10:00)～雨量計の上(11:25)～山頂(13:15/30)～取付(15:30)～メンヒスヨッホ小屋(16:10)

【地形図】FINSTERAARHORN(1/25,000)

【グレード】PD(やや困難)、岩登りⅡ級、ミックス、雪／氷45°

アイガーの影に包まれながら登る

スイス／ベルナーオーバーラント

## Rotstock via ferrata

笹川

【日時】 2009年9月29日(火)

【メンバー】L小暮、笹川

9月にスイスに行くから行きたいところ決めてと小暮に言われ、なかば強制的にスイスに行くことになった。膝痛のリハビリ中なので、なるべく平らなところを探したところミュレンのヴィアフェラータに行き当たった。ミュレンのヴィアフェラータに行きたいと小暮に伝えると最初はヴィアフェラータ??と聞いていたので興味なしかと思っていたら、いつのまにかハードなヴィアフェラータルートにも行くことになっていた。あれれ!!!

ヴィアフェラータとはイタリア語で「鉄の道」という意味らしく、はしごやワイヤーが設置されたルートだが、日本にはないのでグレードも想像し難い。

ロッツストックのアプローチは、アイガーグレッチャー駅からアイガートレイルを辿ることになる。アイガー北壁のルート図が置いてある分岐点から15分ほどで取り付きに着いた。

この辺りは午後のほんの一瞬しか日が当たらないようで他のハイキングコースの植生とは全く異なり、地面に這いつくばる珍しい花が目につく。

さっそく、岩壁沿いに設置されたワイヤーにカラビナ2枚をかけ登り始める。はしごは家庭によくあるアルミ製のものであったので念のため一人ずつ登ることにした。

振り返ると初日に登ったファウルホルンやクライネシャイデック駅がよく見えるが、ずっと日が当たらないので寒い。

ところどころワイヤーのない箇所が出てくるが、道になっていて沢登りをしている人なら恐怖感はないだろう。はしご部分はフリーで登ることを考えると相当大変そうだ。

なかなか稜線には出られずカラビナを架け替えながら岩壁を登っていくが、沢型になっているので登攀的な沢登りに来た気分だ。落石で砕けたような石だらけなので落石には注意が必要。



取付きには看板がある





アイガーは影も大きい



ここにノートが置いてある

ようやく稜線に出ると左にトレースが見えたが、こちらはアイガーのクラシックルートのようなのだ。右に行くとまたワイヤーが出てきてすぐに山頂に出た。

山頂にはノートがしまっていて登頂記録が記入されている。夏場は毎日2~3パーティ登っている。我々も初ヴィアフェラータを祝って記録を残した。

天気も良くメンヒヤユングフラウも良く見え、広い山頂が貸切りで気持ち良い。下山は南側の斜面を一気に降りるが急な斜面で疲れる。何箇所かガイドが設置したと思われるロープが張ってあり助かった。また冬毛になりつつある雷鳥がたくさんいて感激した。

アイガーグレッチャー駅に着くとクライミングをしている人達が見えた。セカンドはかなり苦労していて、思わず「ガンバ」と叫びそうになった。

下山はアイガートレイルでアルピグレン駅まで歩くことにしたが、意外に道が悪く駅に着く頃にはクタクタだった。

日本での情報収集には苦労したが、グリンデルワルトのモンベルで見つけたヴィアフェラータのガイド本が役に立った。リスクなく海外でクライミング気分を楽しめるのが良い。グレードの感覚も分かったので、またヨーロッパに行ったら挑戦してみたい。

【行程】9/29 グルント駅(7:25)⇒(鉄道)⇒  
 アイガーグレッチャー駅  
 (8:08)～取付(9:25)～山頂  
 (10:55/11:35)～アイガーグ  
 レッチャー駅(12:30)～アル  
 ピグレン駅(15:15)

【グレード】KS3-B (Moderately Hard via ferrata)



アイガー北壁がよく見える